

令和4年度 第2回

鳥栖市文化財保護審議会

1. あいさつ

2. 議 題

- (1) 鳥栖市歴史・文化交流発信施設について・・・P1
- (2) 県重要文化財(考古資料)指定候補について・・・P4
- (3) 現地視察(予定)

3. その他

日 時 令和5年2月24日(金)
午後1時30分～

場 所 鳥栖市役所2階第1会議室

鳥 栖 市 教 育 委 員 会

鳥栖市文化財保護審議会委員名簿

委員任期 令和3年10月1日～令和5年9月30日

氏 名	専門分野	所属・現職
会長 藤瀬 禎博	地域史	学識経験者（鳥栖郷土研究会会長）
副会長 金子 信二	民俗芸能	学識経験者（佐賀県文化財保護審議会委員）
委員 宮島 敦子	中世史	学識経験者（佐賀大学名誉教授）
委員 大森 洋子	建造物	学識経験者（久留米工業大学工学部教授）
委員 吉田 洋一	近世史	学識経験者（久留米大学文学部教授）
委員 石山 勲	考 古	学識経験者（元九州歴史資料館学芸課長 日本考古学会会員）
委員 重藤 輝行	考 古	学識経験者（佐賀大学文化教育学部教授）
委員 黒田 達也	地域史	学識経験者（鳥栖市立鳥栖中学校教諭 佐賀県文化財パトロール員）
委員 中島 しょう子	地域史	学識経験者（基山の歴史と文化を語り継ぐ会 事務局 日本民俗学会会員）

議題（１）

鳥栖市歴史・文化交流発信施設について

1 基本理念

地域の歴史的文化遺産は、市民にとってはシビックプライド、アイデンティティの醸成に寄与するものである。この様々な文化資産を保存・継承させ、新たな文化の創造へ繋げていくには、まずは多くの人々にその価値を正しく伝える必要がある。

このため、本市の文化、歴史、自然について来訪者が興味を持ち、わかりやすく楽しみながら理解を深めることができる施設とする。

また市外からの来訪者に対しては、本市の歴史的文化遺産のもつ魅力を発信することで、鳥栖市の歴史・文化観光に資する機能をも果たす施設とする。

2 基本構想

(1) テーマ 人・もの・文化の結接点、鳥栖

(2) イメージ

鳥栖の歴史・文化の魅力に触れる「きっかけづくり」となる場所

(3) コンセプト・ストーリー

地理的に九州の東西南北を結ぶ位置にある鳥栖市

古代より現代にいたる九州内陸交通の要衝として発展

・どのように各時代・各地域の影響を受け

・どのように独自の文化を形成し

・どのように発展してきたか

⇒ 分かりやすく魅力を発見・再発見

(4) 展示の基本方針

- 見て、観て、動きで印象に残る展示
 - ※プロジェクションマッピング・映像・CG・写真等を効果的に使用
- 実際に現地に足を運びたいくなるような（興味を持つ導入部となる）展示
- ふらっと立ち寄る人は数分で、じっくり見たい人は30分以上観覧できる展示

(5) 展示のポイント

【展示室】

- 中央にプロジェクションマッピング（PM）を配置【イメージA】
 - ※テーマ「人・もの・文化の結節点」を鳥栖発展の要因である地勢的・歴史的背景、各時代の状況を古代～現代にいたる内陸交通路を軸に表現
 - ※時代別の集落（遺跡）・道路の変遷等
 - ※細部は背後の大型ディスプレイ（60～70インチ）の映像・画像で補完
- 両側面に展示棚を配置
 - ※立面（壁）を最大限に活かした立体的な展示手法を採用【イメージB】
- パネル・展示資料・映像ディスプレイ等を時代・構成テーマごとに交互に配置、PMと併せて鳥栖の歴史・文化が概観できるようコンパクトにまとめた展示構成
 - ※とくに古来活発な地域間交流を示す資料（象徴となるもの：点数を絞る）
- 背後壁はパネル・タペストリーを懸垂（田代太田古墳壁画など）
- 椅子持込で20～30人規模の小講演会などにも使用可能とする（展示棚のディスプレイを使用）

【ホール】

- フロアの壁・床面をラッピング
 - ※鳥栖市域を含む広域の精細な大型衛星画像を貼付【イメージC】
- 展示棚を配置
 - ※民俗芸能やプロスポーツなどを紹介
- 南側「情報コーナー」に関連ポスターやリーフレットを設置



A

プロジェクションマッピング
イメージ



B

展示棚イメージ
(徳島県立博物館常設展示導入
部「徳島まるづかみコレクション」)



C

ラッピングイメージ

議題（２）

県重要文化財（考古資料）指定候補について

〈配布資料なし〉